

アカデミックデイズ 2021

リスナーからのご質問に対する笠原先生・馬先生・増田先生からのご回答

(2021.10.19. 公開)

【修学旅行、古今東西！】

Q. 京都大学には観光できる場所はある？

A. 時計台で写真を撮っている観光客はたくさんおられますね。（笠原先生）

Q. （馬先生へのご質問）中国では修学旅行はあったの？日本の修学旅行との違いは何だろう？

A. 私の場合、クラス単位での遠足はありましたが、泊まりができる修学旅行のようなものはありませんでした。日本式の修学旅行を体験したかったです。（馬先生）

【修学旅行生の行動解析プロジェクトについてお話を伺いました！】

Q. 今回お話された情報推薦システムは、災害時の避難誘導や安否確認のシステムと共通の部分はあるの？

A. 情報推薦システムと避難誘導システムは、平常時に使うか、非常時に使うかという点で異なります。情報推薦システムでは観光客は必ずしもお勧めのルート通りに移動するとは限りません。そこが、ルートから外れると危険な災害時の避難誘導システムとは異なる部分です。（馬先生、笠原先生）

Q. モデルは人がデータを見ながら作成するの？モデル化する際に AI などは使える？

A. 行動モデルの基本的な枠組みは、研究者がデータを見ながら考えました。大量のデータがあるので、処理は計算機のお仕事です。（笠原先生）

Q. 修学旅行の研究は、今すぐにでも社会の役に立ちそうだけど、実社会に密接した研究の面白み、逆に大変な面は何だろう？

A. 研究テーマの面白みは、実社会との距離はあまり関係なくあるものです。一方で大変なのは、使ってくれるユーザーが見つからないことです。（笠原先生）

Q. 真の迷子を検出できない問題の解決策の一つとして、デバイスで観光スポットの情報を見た履歴から、可能性のある目的地を予想するのはどうだろう？観光地に行く前には、写真を見たりするなど、何かと事前に調べる可能性があると思う。

A. 情報履歴を用いるのは非常に有効だと思います。しかし、検索企業との調整が非常に難しいのが実態です。（笠原先生）

Q. 実験で迷わせるということは、成長期の子供のそれからの人生に影響を与えるのではと思いました。いかがでしょうか？

A. 説明が不足していました。迷子実験の対象者は修学旅行生ではありません。対象者は事前に同意を得た 18 歳以上の男女です。また、迎えのスタッフも十分用意していました。（笠原先生）

Q. 単純にコンピュータシステムで最適化すると、感覚を機械に委ねることになり、これまでの安全弁だった程度感覚、常識感覚が薄れるような気がするので、人間の感覚を取り込めるシステムが必要ではないか？

A. 人間が持っていなければいけない感覚や常識の範囲がどこまでなのか。考え始めると、とても難しい問題です。原始時代なら、木を使った火のおこし方は常識だったでしょうが、今はライターやマッチで事足ります。現代は、デジタル化が進行している技術的な過渡期であり、常識が広く共有されていない時代です。とてもお答えするのが難しい問いかけですね。（笠原先生）

【馬先生、増田先生のこともっと知りたい！】

Q. 馬先生がご研究されているフェイクニュースの技術研究とは一体どのような研究？今回ご紹介いただいた共同研究にどのように生かされているの？

A. フェイクニュースを AI を使って検知し、皆さんがフェイクニュースにひっかからないよう、多様な情報を提供するというような研究を行っています。共同研究では、観光客が SNS で発信したコンテンツを分析し、一般の観光客がどう感じているかという観点から研究を行っています。（馬先生）

Q. 増田先生・馬先生の研究は、笠原先生の研究のどのような部分に関連している？目指しているところは？

A. 観光地のブランドへの影響やどういう体験を行えば観光地のファンになるのかというような、観光地における観光客との長期的な関係性構築の評価の部分で関連しています。（増田先生）

A. 観光客と地域の両方のご利益を両立できるような観光情報システムを目指しています。修学旅行生や観光客のデータを収集し、観光に関する集合知・知識をマイニングして利活用しようと考えています。（馬先生）